＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

LactPren（らくとぷれん）

～農業体験・環境教育から学ぶ地域連携と食教育～

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第１章　プロジェクトの概要など

１．プロジェクトの名称、目的など

LactPren とは「地域の活性化と環境保全」を仏訳した、L‘activation et la Protection l’environnement　の下線部分からの造語である。

（１）プロジェクトの目的

①実践的活動を通した地域連携

京都市伏見区深草地域および京都市北区小野郷地域等において、地域の人々や諸団体と連携・協力しながら環境整備活動や農業体験を通して地域貢献を目指す。

②学校における食教育の考察

農業体験や食育に関する企画を通して、近年学校教育で重要視されている「食育」に対する正しい知識を身に付ける。

目的についての詳細

地域との連携が重要視されている昨今の学校教育であるが、実際には地域とのかかわりが希薄である。そのため、将来教員として教育に携わる私たちが農業体験や環境整備活動等の実践的な活動を行い、様々な立場の人々との交流を行いながら学校と地域の連携について考察していきたい。

食とは人間が生活していくうえでの根本であり、私たちは意識しなくとも、「育てる」→「収穫する」→「調理する」→「食べる」という過程と深く関わりを持っている。しかし、私たちが実質関わる部分は、「調理する」、「食べる」の二か所であり、残りの「育てる」、「収穫する」には関わることがめったにない。

食育とは、「国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組み」を指すが、その中には「育てる」や「収穫する」ことに関する内容も求められるのではなかろうか。

文科省は「近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。また、食を通じて地域等を理解することや、食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することも重要です。」と示しており、昨今の学校教育でも食教育は重要視されている。

これらから食に対する正しい知識と生産者の苦労等を学び、将来教員として教壇に立ったときに正しい食育が出来るよう様々な経験を行う。

小野郷地域においては野菜を育て収穫するという生産の過程を学び、深草地域では食育のイベントを通して参加者の食に対する意識調査等をしていきたいと考えている。

２．代表者および構成員

・代表者：

岸本　大樹　社会領域専攻　３回生

・構成員：

森川　　孝　社会領域専攻　４回生
高下　真由　社会領域専攻　３回生
中牟田奈歩　社会領域専攻　３回生
水上　咲希　社会領域専攻　３回生
森山祐之朗　社会領域専攻　３回生
山際　　蓮　社会領域専攻　３回生
木村　純也　社会領域専攻　２回生

世古　千春　家庭領域専攻　2 回生
世古　春香　社会領域専攻　2 回生
勢登　加菜　社会領域専攻　2 回生
竹田　美月　社会領域専攻　2 回生
弘田　真基　社会領域専攻　1 回生
松田　良子　社会領域専攻　1 回生
山中　翔太　社会領域専攻　1 回生

３．助言教員
武田　一郎先生(社会科学科)
石川　誠先生(社会科学科)
Ａ・オーバーマイヤー先生(英文学科)

４．その他
・協力団体
NPO 法人　京都北山悠悠自然塾
NPO 法人　深草ふれあい隊　竹と緑
伏見区役所深草支所
龍谷大学政策学部清水ゼミ
京都市立芸術大学美術学部高井研究室
聖母女学院短期大学畑部

・協力者
石野　沙織　社会科教育専修　1 回生
朱　　凱悦　国語領域専攻　4 回生
王　　琪薇　社会領域専攻　3 回生
菊池　　聡　社会領域専攻　3 回生
永原　友輝　社会領域専攻　3 回生
本屋敷結衣　大阪大学文学部 2 回生

第２章　内容や実施経過など

◇京都市北区小野郷にて

【概要】

京都市北区に有名な北山杉で知られる小野郷地域がある。小野郷は京都市の中心部からバスで一時間程度の距離でありながら、清流や青々とした森林、澄んだ空気という魅力的な環境をもつ地域である。

しかし、小野郷は現在、高齢化や人口減少が深刻な問題となっている。そのため、耕作放棄地（休耕田）をどう活用していくか、また地域活性化を目指していく上でどのようなことをしたらよいかなどを行政（京都市）や地域住民、NPO 等が各種取り組みを行っている。

平成 22 年度より LactPren が「e-Project @kyokyo」に応募し農業体験を通して地域の活性化について考える活動を行ってきた。今年度も小野郷地域で農業体験を通した地域連携に目を向けた活動を行った。

【実施内容】

5/4：田植え

機械と手植えの両方を行ったが、初めてのメンバーは NPO のメンバーの方の話を聞きながら、昨年も体験したメンバーは慣れた手つきで、楽しみながら苗を植えた。

【田植え体験】

5/25:芋の苗植え

今年度初めての畑作業であったため、畑作業の苦労を思い出しながら、メンバーと協力し活動した。

【サツマイモの苗植え】

8/27-28：小野郷合宿研修

今年度は、現在休校となっている小野郷小中学校を利用して、夏期研修合宿を実施した。

NPO との親睦を深めるとともに、昨年実施した畑づくり体験学習を元に、自分たちで畑をつくり、大根・白菜・人参の種まきを実施した。

9/14：稲刈り、野菜の間引き

大地の実りに感謝しながら、稲刈りを行った。田植え同様、機械と手刈りの両方で稲を刈りとった。

この日に夏合宿で植えた野菜の間引きも行った。

【コンバインを使用した稲刈り体験】

11/5：野菜の収穫

夏期研修合宿で実施した種まきののち、成長した大根・白菜・人参の収穫を行った。

昨年は台風や鹿などの野生生物の影響で収穫量が減少したが、今年度は無事一定量の収穫量を確保することが出来た。

また、収穫した野菜は後述する藤陵祭で販売した。

11/7-9:藤陵祭

例年通り、私たちの活動 PR と小野郷で収穫した野菜や米、大根煮、そして今年は新メニューとして野菜スープ、スイートポテトを販売した。特にスイートポテトは生産予定量を上回るほどの大人気であった。

また、LactPren の活動や小野郷を PR したパネルの展示や、パンフレットの配布、活動の様子を映したスライドショーを流した。

10/19・10/26・11/2・11/16・11/23：
朝市への参加

地域活性化の取り組みのひとつとして NPO が毎年企画している朝市へ参加し、野菜の販売や芋ほりを行った。

11/29：清水寺へ米の奉納

私たちが育てた米を清水寺に奉納した。今後、小野郷で作った米をブランド米化し、自分たちの活動を PR していきたい。

◇大岩山にて

【概要】

大岩山は伏見区と山科区にまたがる山である。以前から産業廃棄物をはじめとする不法投棄が問題となっていたが、2008 年度に行政(伏見区役所深草支所)、NPO、京都教育大学の大学生、地域住民らが協力し、100 t ものゴミを回収した。

2009 年度には、行政、NPO、地域住民らと、本学の体育会諸クラブとが協力し、山頂付近の雑木伐採などを行い、伏見を一望できる展望台を設置した。

2010 年度には LactPren と本学体育会、行政、NPO、地域住民らが協力し、展望台までの遊歩道を完成させた。

2013 年度には、LactPren をはじめとする本学学生、行政、NPO、他大学の学生の協力を得て、大岩山ポンプ場付近に大岩山の竹を用いた竹柵を完成させた。

2008 年度から上記のような取り組みを行っているが、依然として不法投棄が続いているため、行政、NPO、地域住民などが清掃を行っており、LactPren も清掃活動の運営に参加している。

【実施内容】

4/23：大岩山整備活動

本学体育会のアメリカンフットボール部、社会領域専攻１回生の協力を得ながら、枯竹や不法投棄物の撤去などの整備活動を行った。

【枯竹の撤去作業】

7/19・11/29：じゅんさい池清掃

大岩神社の参道にある「じゅんさい池」の清掃を行った。このじゅんさい池は、我々が大岩山の清掃活動を開始した頃から清掃の対象となっておらず、倒木等が池に沈むなど、環境の悪化が問題視されていた。

今年度は、大岩山の景観をより美しくするために行政や本学アメフト部の協力を得て清掃を行った。

◇市民農園“風緑”にて

近年、学校教育では「食教育」が重要視されるようになってきた。そこで、将来教員となって学校現場に携わる私たちがどのように食教育を行っていけば良いかを考えるきっかけとして、伏見区の市民農園“風緑”で食育イベント「五感でごはん」を開催した。今年度は子どもたちが食に対してどのような意識を持っているのかを把握するために本イベントを企画した。また、本イベントは龍谷大学政策学部清水ゼミ、京都市立芸術大学美術学部高井研究室、聖母女学院短期大学畑部、そして伏見区役所深草支所との共同企画として行った。

本イベントは「五感を使う」ことに重きを置き、五感から食物にアプローチしていくものである。現在までは、参加者とともに、野菜の収穫と調理、タケノコ掘り、そしてハーブの見分けやハーブティ体験などを行ってきた。

【実施経過】

2/23・5/11・7/20・10/18：五感でごはん

【参加者との集合写真】

第３章　結果や成果など

◇京都市北区小野郷にて

今年度の活動は田植えから始まり、芋の苗植え、芋ほり、稲刈り、野菜の収穫、朝市体験など様々な活動をすることができた。将来、教員として子どもたちに、自身が経験した内容を踏まえて話をすることができるという観点から、私たちが得たものは非常に大きいと考える。

そのほかに農作業を通して、集団で活動することの重要さを学んだ。広大な農地の作業は大きな労力と多くの時間を労する。しかし、多くの人と協力して作業をすると労力と時間を削減することができる。また、協力して作業を終えたときには言葉に出来ないほどの充実感を覚える。教育現場では、教員同士や保護者との連携が大切である。実際に教育現場に出る前に、集団で活動することの難しさや大切さに気づくことができたのも大きな収穫であった。

◇大岩山にて

今年度も継続して清掃活動を行うことができた。また、じゅんさい池という今まで清掃活動を行ってこなかった場所の清掃も行うことができ、大岩山をより魅力のある伏見の里山に一歩近づけることができた。

地道な作業ではあるが、本学の多くの学生が参加し、深草地域の人々と協力して今後も継続していきたいと考えている。

◇市民農園“風緑”にて

本イベントで多くの参加者と関わる機会を得た。特に子どもたちの、食に対する興味や認識を知ることが出来たのはとても大きな収穫となった。

また、他大学や NPO、行政と連携して、企画、実行するという一連のプロセスを経験した。今までは LactPren のみで体験教室を企画、実行を行っていたため、他大学の学生との連携は新鮮なものであり、有意義であった。

第４章　まとめと反省、今後の展望など

１．まとめ

小野郷や深草地域での体験を通して、立場の違う多くの人々と関わることで、様々な知識や考え、経験を得ることができた。どの経験においても共通して言えることが、人とのコミュニケーションが重要ということである。職業や年齢の違う様々な人と関わることがどの活動においても私たちのスタート地点である。様々な活動を通して、積極的に人々と関わっていく大切さ、そして多くの人々に支えられて活動を行っていることをひしひしと感じることができた。

２．反省

今年度は小野郷のみならず、伏見でも様々な体験活動を行い、京都新聞や雑誌への掲載やテレビ出演など、昨年度と比較して学外への PR 活動が充実した一方、学内への PR が大岩山清掃、藤陵祭の時しか出来ておらず、不十分であった。来年度は社会領域以外のメンバーの勧誘も含め、学内に広く LactPren の活動を PR したい。

また、伏見の食育のイベントでは他大学と連携して活動していく難しさを感じたので、来年度以降も継続して実施していくのであれば、さらなる工夫が必要であると考えた。

３．今後の展望

NPO 法人“京都北山悠悠自然塾”、NPO 法人“深草ふれあい隊「竹と緑」”、そして行政（伏見区役所深草支所）と連携しながら、農業体験学習、環境教育、食育についての考察、実践を継続していきたいと考えている。年々継続していくにつれて、数多くの発見があった。その多くの新しい発見を教員としての自分たちの将来に活かしていきたい。

また、これらの活動は、学校と地域の連携が重要視されている昨今、将来教職を目指す私たち学生がどのように地域と関わっていけば良いかを考えるひとつの機会として意義深いものとなるので、今後とも積極的に活動していきたいと考えている。

＜添付資料＞

【京都新聞 朝刊 平成 26 年 8 月 29 日（金）】

“未来の先生”農業体験

休耕田を活用した農作業体験で、大根の種を植える京都教育大の学生ら（京都市北区大森中町）

「教育者の卵」の学生たちに農作業を体験してもらおうと、自然環境の保護活動に取り組むNPO法人が、京都市北区の休耕田を活用した農業体験の場を提供している。京都教育大の学生らが野菜の栽培を通して、農作業の大切さや苦労を学んでいる。

主催したのはNPO法人「京都・北山悠悠自然塾」。中西隆理事長（71）が、過疎化する北区大森中町の休耕田を地元の農家から借り、6年前から続けている。今年は同大学と大阪大の学生計13人が27、28の両日、休校中の小野郷小・中に宿泊しながら参加した。

学生たちは約5㌃の畑地で同法人のメンバーの指導を受け、牛ふんを混ぜた土に白菜や大根、ニンジンの種をまいた。減農薬栽培で約2カ月後に収穫し、11月の京教大の学園祭「藤陵祭」で煮物として提供する予定。

小学校教諭を目指す京教大4年森川孝さん（21）＝伏見区＝は「思っていた以上に手間のかかる作業だが、農作業に従事する人の苦労を知ることで、子どもたちの興味を引く授業や食育に役立てられる思う」と話した。

熱心に作業を進める学生に向け、中西理事長は「ベーバーだけの教育でなく、地域とのつながりの大切さや農作業の大変さを実感して、将来教壇に立った時に次代を担う子どもたちに、体験で学んだ事を伝えてほしい」と願っている。（今川敬士）

NPO 北区の休耕田提供

苦労実感 授業に生かす

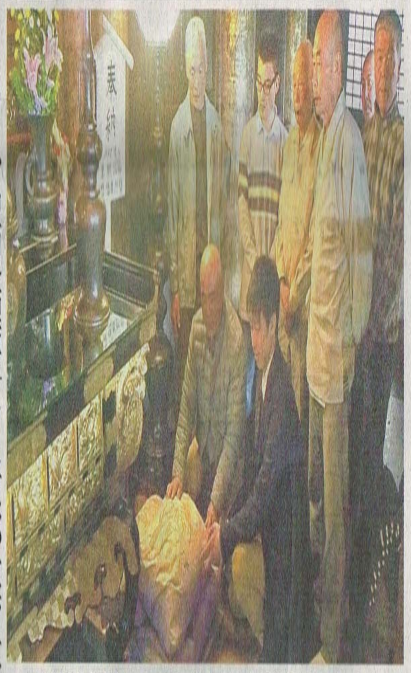
【京都新聞 朝刊 平成 26 年 11 月 30 日（日）】

休耕田活用 収穫米330㌔奉納

北区・NPO 地域間交流で清水寺に

自然保護活動に取り組むNPO法人京都・北山悠悠自然塾（京都市北区）が29日、地元の休耕田を活用して収穫した米を清水寺（東山区）に奉納し、地域間交流へ思いを新たにした。

同法人は6年前から、過疎化が進む山間部・小野郷学区の休耕田を農家から借りて耕作している。小野郷小（休校中）が戦時中に、3年前に閉校した清水小の集団疎開を受け入れた縁から、近くの清水寺へ米を奉納して絆をより深めようと企画した。



本堂に米を奉納する京都・北山悠悠自然塾のメンバーたち（京都市東山区・清水寺）

この日、中西隆理事長（71）や耕作に協力した京都教育大の学生ら8人が訪れ、米330㌔を奉納した。戦後も続いた両小の交流について同寺の森孝忍・法務庶務部長（70）に説明し、本堂に参拝した。今後も続けていきたい、としている。（葦原裕）